

2023年10月31日

トヨタ紡織株式会社

2023年度 第2四半期決算説明会 質疑応答要旨

Q 1 : 第2四半期実績について、日本地域は売上の増加以上に利益が伸びている。米州地域は台数と売上が伸びているが利益は減っている。一過性の要因があれば教えてほしい。

A 1 : 連結全体で一過性は52億円程度、内訳は型利益と客先からの価格転嫁等で特に日本地域に多く含まれている。米州地域には直近立ち上がった車種の生産準備費用が入っている。

Q 2 : 下期の台数前提について、内示をどれくらい反映させ、リスクをどれだけ見込んでいるか。今回の修正の立て付けを教えてほしい。

A 2 : トヨタの年間1040万台レベルをベースに下期を修正している。稼働停止の影響については、停止したライン分だけを減益影響で入れている。挽回分は織り込んでいない。

Q 3 : 通期業績予想について、前回公表に比べ合理化吸収が+63億円と大きく改善している。どのようなアイテムの積み上げになっているのか、また体質として根付いているのかなど内容を解説してほしい。

A 3 : 客先からのAPR率が下がったことに加え、社内での追加合理化、特に日本地域での製造改善やVAが入っている。またアジア、欧州、その他の地域の製造改善効果も織り込んでいる。

Q 4 : 御社の実力値について、売価の遡りによる利益など一過性のものは剥落していく一方で、社内での合理化や改善は体質として継続すると思われる。今期の4.7%という年間営業利益率の評価と来年度以降の見通しについて教えてほしい。

A 4 : 型利益や単価の一括決着等が年間で約108億円と見ている。その内の型費等を除いた一過性に近いものは約40億円とすると、営業利益が約890億円になる。そのため利益率で4.5%程度の実力値はあると思っている。2025年の目標6%~7%に向けて、まず5%を目指していく。また、号口の生産台数が増加、変動費の改善や材料市況等の回収も進んできており、限界利益は改善傾向にある。コロナ期間中も含め、白柳社長の号令の下で改善を進めてきた成果が数字として表れてきている。研究開発費や減価償却費等の固定費は、執行時期の見直しにより上期から下期にずれ込んだものがある。そのため上期にくらべ下期の利益率が低くなっている。

Q 5 : 中国地域の減益見通しについて、数量以外で車種ミックス、価格、競争環境など気になる点を教えてほしい。また来期の中国市場をどう見ているか教えてほしい。

A 5 : 中国の自動車市場はまだまだ緩やかに成長していくと捉えている。中国の内需だけでなく中国から各国に輸出されていくため、総市場としては増えていくと見ている。懸念は電動車の急速な増加により、日系もしくは欧米系がシェア維持に苦戦している点だが、トヨタ自動車は日系の中でも頑張っており、まずはトヨタの生産にしっかりと応えていける体制をつくり、より柔軟性を持って対応していきたいと考えている。車種構成は前期立ち上がったミニバンの増加により良化している。いつまで続くのかしっかり見極めていく。中国市場は短いサイクルで新しいモデルがどんどん提案されている。中国資本の OEM に提案していくため、中国の開発拠点体制を見直し、経費もある程度使いながらしっかりやっていきたい。

Q 6 : グループ会社の中でアイシンが政策保有株ゼロを表明している。こういったグループの方針に関して、今どんなことを考えているか考えを聞かせてほしい。

A 6 : 政策保有株式について、各社が決算発表会や IR 等で話していることは承知している。当社としては株主構成が変わってくることを意識しながら、正しい情報発信をしていきたい。大きな転換点であり、各社が次の成長に向けての原資を確保し、グループの競争力が総合的に上がっていく時期だと思っている。しっかり情報を得ながら、当社の株主構成を考えていきたい。また、当社の政策保有株式については、保有の意義等々を鑑みながら引き続き検討していく。政策保有株式以外も含む資産全体の効率化を図り、バランスシートを見直す大きな時期だと思っている。

Q 7 : 北米の人件費高騰が課題となっている。工場の再編などを進めてきたと思うが、改めてこういった形で収益性を改善していく考えなのか可能な範囲で教えてほしい。例えば、メキシコなどに生産地を移す考えはあるか。

A 7 : 米州地域は、労務費の高騰や人の定着といった労働市場が大変厳しい状況になっている。各拠点において従業員の定着に向け、働きやすさなど職場環境の整備を足元で進めている。少しずつ効果が出てきており、ターンオーバー率も減少傾向にある。引き続きしっかりとやっていきたい。既に発表した通り、アイシン・シロキからの移管事業を手の内化するため、ケンタッキーに新会社を設立する。機械化により生産の安定を図り、北米域へ部品を供給することを進めている。ここを基点として部品生産のロケーション再編を検討していきたい。このように米州の収益改善を力強く進めていきたい。メキシコにも拠点を持っているが、当社の製品はシートやドアなど比較的バルキーな部品であり、米国全体で輸送コストが上がっている中、例えばメキシコなどでアッセンブリーして米国に持っていくことは考えていない。現時点では客先の近くで納入する体制をいかに効率化していくかが優先課題と思っている。

以上